

# 米国新大統領就任

市川浩

一月二十日正午（現地時間）、ドナルド・トランプ氏第四十五代米国大統領に就任す。トランプ氏の有権者への約束の主題は「make America great again」（偉大なる米国を再び）なりとて、我が國の識者の多く、保護主義による米國一國主義と批判す。然るに其の全文を（けみ）閱するに先づ其の目的を達成するための百日間の活動計畫の表明あり、而して最初に掲ぐるは、ワシントンの地名に代表さする政治的特殊既得權益の淨化對策なり。其の具體的施策の第一に兩院全議員の在任期間を制限する憲法改正を挙げ、第二に聯邦職員の新規採用を凍結して自然減による定員の減少を圖る（軍事、公衆安全、公衆衛生關係を除く）。第三に聯邦規則の新設一件毎に既存の規則二件の廢止を義務付く。第四はホワイトハウス並びに兩院の事務官に對し、政府の職務離任後五年間は謂はゆる

ニ陳情人（ロビイスト）ニ稼業の禁止、亦外國政府の爲の陳情や、米國內の選舉への外國人陳情人の獻金禁止など具體策合計六件を示す。

上記の活動の他米國労働者保護に七施策、これにはNAFTAの再交渉、TPPからの脱退、中國の爲替操作を批難する等を含む。更に法律に對する安心感及び法治性の恢復活動に五施策、これにはオバマ前大統領による「違憲的」大統領令の取消を含む。

これら具體的政策を大統領就任までに表明せるは、なかなかの準備力ならずや。或いは選舉運動中に既に表明あるを、八重の潮路隔つる日本には届かざりけりや。何れにしても百日活動計畫の第一に擧ぐるワシントンから有権者への權力恢復移轉は、圖らずも英國のニ（ブレグジット）歐洲聯合離脱ニを想起せしむ。當時英國の知識人曰く、歐洲聯合下にては、全てはブリュッセルにて決定し、英國人は何も決められずと合衆國も各州の連合體にて全てワシントンにて決定すとならば各州の知識人はかの英國知識人と同様の不滿を持つべく、之が是正を政策の第一に掲げたるトランプ氏の慧眼を見直すべきに非ずや。

我が國にとりては、日米安全保障條約と環太平洋戰略的經濟連繫協定（以下TPP）の今後に注目必要なるは當然なるも、特に後者の場合交渉の全期間に亙り米國側を指麾せるはオバマ政權にして、本來爲すべき兩院の批准手續を怠り、次期大統領の「離脱」表明にて白紙撤回を實現するは、國際信義にも悖り、我が國としては厳しく問質（とひた）さるべからず。思へば、終戦時北方四島をソ聯に、竹島を韓國に、石油埋藏判明後は尖閣列島、今回米國のTPP離脱と我が國の無武力に乗ずる「現状變更」に抗する手段何處にかあるらむ。

されど茲に一筋の光明あり。今回のTPP離脱は上記の如く國際信義上の不信を米國に科するものにして、其の遠因の一つに甘利氏以下のTPP交渉團の健闘あるを想起すべし。この觀點に立たば、ロシアはクリミア併合、中國は南支那海領有無効判決、韓國は日米韓合意の不履行と各國何れも不信を買ふ中、寧ろ我が國の公正の態度價值を高めつゝあり。奇しくもトランプ氏の「偉大なる米國を再び」は第一次安倍内閣の基本標語たりし「美しき日本を取戻す」と構文を同じうす。當時の識者例によりて過去の罪業を美化せむとする右翼思想なりとの批判を記憶するも、今日彼は「偉大」我は「美」と、國柄の多様性を尊重しつゝ、日本語發想による厳しくも美しき交渉にこそ徹すべけれ。かく我が國が行動に美を示さば、途は自づから開かれむ。

（平成二十九年一月二十八日受附）